

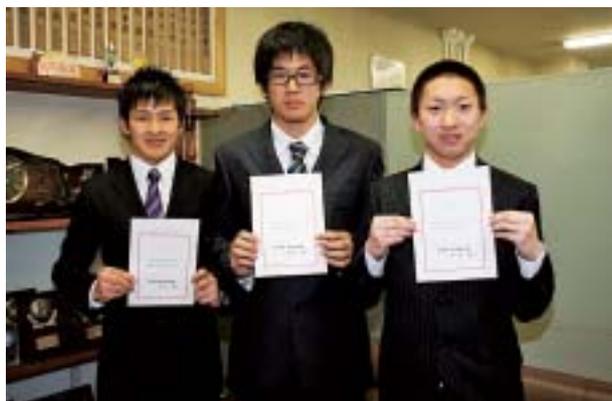
学生が支える消防団活動

札幌市北消防団あいの里分団 よし あか 吉岡 ひろ たか 裕貴、き また 木全 りょう すけ 亮介、あん どう 安藤 ひろ と 寛十

平成 20 年 4 月 1 日、北区内で在学中の学生が北消防団東篠路分団の団員として任命を受けました。

東篠路分団は、同年 7 月 1 日、あいの里分団に名称変更しましたが、近年団員数が減少傾向にあり、学生が消防や救急救命の活動に参加することで活性化し、地域の「安全・安心」の確立や防火・防災体制の充実が図られればと期待を寄せています。

消防団員に任命されたのは、北海道教育大札幌校 4 年生の吉岡裕貴、同 2 年生の木全亮介、吉田学園医療歯科専門学校 2 年生の安藤寛十の 3 人です。



消防団員の任命式で、左から吉岡、木全、安藤

また、こうした消防団員としての活動が、北海道教育大学札幌校「消防サポーターの会」の結成、そして、北消防署との覚書調印へと広がりを見せています。

消防サポーターの会は、平成 20 年 10 月 1 日、大規模災害発生時に消防機関に協力することにより地域の安心・安全に貢献することを目的として、学生有志 45 人によって結成されたもので、同年 11 月 9 日、北消防署との覚書調印を行いました。町内会などを主体としない、学生による団体が消

防署と覚書を交わすのは全国的にも珍しく、道内では初めてのことです。

学生消防団員 3 人が入団するきっかけや日ごろの活動、そして、消防サポーターの会の結成秘話などをご紹介します。

1 学生消防団員の誕生

< 消防士を目指して >

私が学生消防団員の募集を知ったのは、ちょうど 1 年前のこと。私が住んでいる学生寮の先輩が消火栓の除雪ボランティアの活動に参加しており、そのつながりで学生消防団員の募集を知りました。

私は以前から消防士という職業に魅力を感じていたこともあり、この話を聞いたときすぐに入団することを決意しました。消防団に入ることによって消防という職業について理解を深めると同時に、訓練や活動に参加し、多くの方々と接する事によって自分自身の成長につながればと考えたからです。

私は消防団に入るまで、消防団の存在は知って



制服姿も凛々しく

いたものの、消防団がどういうものなのか、どんな活動をしているのか、どんな人たちがやっているのかなど消防団についてまったく知りませんでした。多くの学生が私と同じように消防団についてほとんど知らないと思います。

消防団と聞くと、「すごい」とか「大変そう」という印象を持つ人が多いように思いますが、消防団の活動は多くの人がイメージしているような強制力や肉体労働のようなものは全くなく、日ごろは防火・防災の広報活動や緊急時に備えてさまざまな訓練を行っています。防火・防災など多くのことを学べるとても良い人生経験の場であり、これらは意欲さえあれば性別に関わらず、誰でもできる内容です。

大学生には時間と体力があります。多くの学生がその空いている時間や体力を自分の住んでいる地域や住民のために活かすことができたら、地域の安全が強化されることに加えて、地域に活気が生まれるように思います。

少しでも興味・関心のある学生はその時間と体力を活かして消防団に入団して私たちとともに活躍してもらいたいと思います。(吉岡裕貴)

< 消防士の父を追いかけて >

私が消防団に入った理由は、前々から消防士という仕事に興味を持っており、どのようなことをするのか身近で感じたかったということです。私の父が消防士で、自分にとって一番親しみのある職業だったためか、小さいころからの私の夢は消防士でした。今も消防士はやりたい職業の一つですがどんな活動をするのかはあいまいで分かっていなかったし、昔からやってみたいと思っていたので、大学の先輩に誘われたのをきっかけにして消防団に入りました。

また、もし消防士にならなかったとしても消防団での活動はとても貴重な社会体験であり、また、ふつうでは経験できないようなことをすることが



消火栓の点検作業

できるので、必ず自分の成長にもつながると思っただことも理由の一つです。(木全亮介)

< 救急救命士になりたいくて >

私は今、人のためになる仕事、人を助ける仕事を目指し消防職員、中でも救急隊、救急救命士になるために日々勉強しています。

学校では、ほぼ救急に関わる勉強を行っていて、消防に関わることは1年生の時の前期にロープの結索を行ったくらいでした。私が学校で消防署に実習に行って思ったことですが、地方に行けば行くほど、時には救急、時には消火というように消防職員は何でもできなくてははいけません。そのため、学校では救急の事を学び、消防団ではそれ以外のことを少しでも学び、訓練できるのではないかと思い入団しました。



応急処置訓練

また、人のためということがどういう事なのかを再確認するためというのも入団した理由の一つでした。

(安藤寛十)

2 消防団員の活動

< この一年を振り返る >

自分は、昨年4月に北消防団あいの里分団に入団し、もうすぐ1年が経ちます。この1年間で消防団に入団しなければならない経験をたくさんすることができました。

まず、入団してすぐに、学生3人で初任教育訓練を受けました。あいの里出張所に行き、消防職員から直々に指導を受け、消防団員になったんだなとここでまず実感することができました。

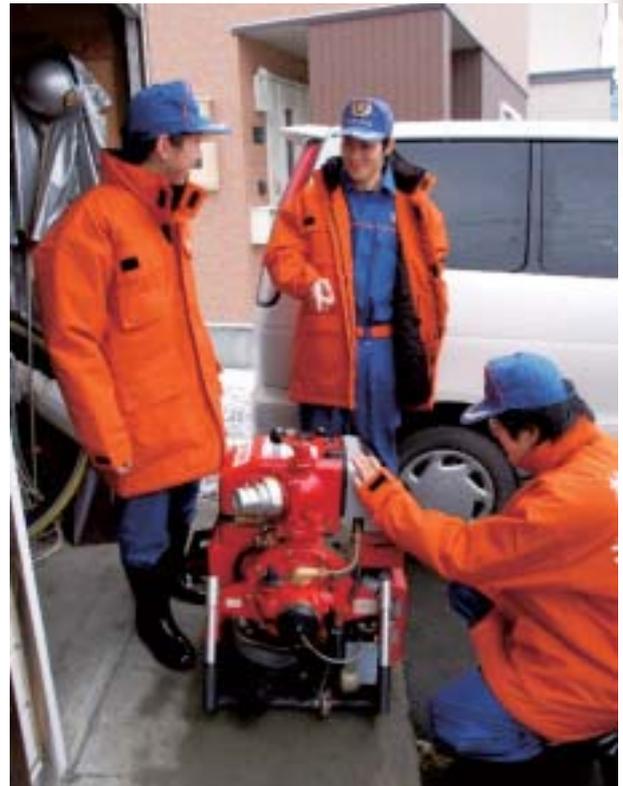
訓練内容はさまざまで、規律訓練から始まり、ロープの結索訓練、応急処置訓練、放水ホースの伸ばし方・巻き方、さらに放水訓練もご指導をいただきました。規律訓練やロープの結索訓練等はすでに学校で学んでいたもので、復習と技術の向上のための訓練でした。しかし、放水訓練は今までに体験したことのない訓練だったので、水圧の重さやホースの仕組みなどに驚き、同時に自分が放水しているということに少なからず感動しました。

7月には北海道洞爺湖サミットが開催され、その間、私たち消防団員はテロ警戒のためパトロールを数多く行いました。その結果、あいの里地区では特に異常はなく、無事にパトロールは終了し、サミットは閉会を迎えました。

そのほかに、火災報知器を一般家庭に設置するよう促すためのチラシ配りや、冬には消火栓の除雪など行いました。

この1年を経て、消防団の活動を知り、陰で地域に貢献していると感じ、この活動を誇りに思います。

(安藤寛十)



放水ポンプの点検作業

< これからの消防団活動 >

これからの消防団の活動として、まず消火栓の除雪があります。この活動は雪が積もっている期間のみのものですが、消火栓の周りに雪が積もっていると実際に火が発生したときにその消火栓は使うことができなくなるため、大変重要な活動です。また、町内警戒パトロールも行います。この活動も火事を未然に防ぐために重要なものです。他にも、放水訓練などさまざまな訓練を行います。そして大きなイベントとして訓練大会というものがあります。これは分団ごとに訓練してきたことを競い合うものでホースを使った放水訓練や、敬礼などの礼事訓練まで、消防団として必要な技術を高め合うものとして大変重要な活動です。また、何か火事などの事故が起こったときに消防士の補助として活動することがあります。これは事故自体が少ない上に、いつ起こるか分からないため毎回参加することは難しいですが、消防団の一番大切な活動であるといえます。

私は今年で消防団に入って2年目となります。去年は訓練も初めて行うことばかりで戸惑ってしまったり、できなかつたりしたことがありましたが、今年はその経験を踏まえてさらにいろいろなことを学んでいきたいと思います。そのためにも、今後消防団の活動をさらに積極的に取り組んでいきたいです。(木全亮介)

3 消防サポーターの発足にあたって



消防サポーターの会と北消防署との覚書調印式

私は消防団に入団して、いくつかの活動に参加してきました。その中でも最も必要性を感じた活動として普通救命講習というものがありました。

普通救命講習というのはAEDの使い方など心肺蘇生法を学ぶ講習で、応急処置をする上で必要な知識・技術を学ぶことができます。これは定期的に消防署で行われており、一般の人でも受けることができるものです。

私は、この講習を受け、自分の身の周りの命を救えることの大切さを再認識し、まずは、この講習を普及することが必要であると強く感じました。

そこで、まずは、私の身の周りからこの講習を普及していこうと思い、自分の生活の拠点である寮の仲間と所属しているラグビー部の仲間にこの講習の必要性を伝え、みんなで講習を受けることを提案したところ、多くの共感を得ることができました。

日ごろから「学業の間の暇な時間を有効に活用したい。」「自分が生活している地域のために何かできることはないか。」と考えている学生は多くおり、この学生の力をうまく活かす方法はないかと考えて消防署の方に相談し、今回の組織を発足する運びとなったのです。

多くの学生が普通救命講習を受講し、知識・技術を身につけ、大規模災害が発生したときや、地域で多くの力が必要とされているときに地域・住民のために力になれる組織になっていくことを願っています。

また、今回は私の身近にいる学生とともに活動していますが、私たちと同じように感じている学生は多くいるように思います。今回の活動が、広く多くの学生たちにも広がっていくことを私は強く願っています。

(吉岡裕貴)